

## 89 《聖マタイの召命》

【カラヴァッジョの描く親指】での使用意図

2013・2024（改訂版）

真鍋友範

よく似る身体動作であっても、描かれた表現相互間の比較をすることにより、  
実はその意味が大きく異なることを発見したので、紹介したい。

### 1 身体動作は語る



《聖マタイの召命》\* 髭男の左手に注目（イエローの円）

\* 髭男からの質問を受容するイエスの左手（グリーンの円）

【重要なのは、カラヴァッジョの描く親指】だ。聖マタイの召命に登場する髭の男の左手に注目。角度は45度だが、指先は力がこもって90度に立てられている。

そして、その意味は『お探しの方は、私ですか、それとも隣のメガネの人ですか』となる。

質問を受けたイエスは、受容の意味で左手を広げている。(グリーンの円)

では《ロザリオの聖母》はどうだろう。



ロザリオの聖母の右手の意味は、『イエスの導きを、イエスに代わって、あな

たが民衆に伝えなさい』の意味だ。(オレンジの円)

つまり、親指は、最初はイエスに向けられ、続いて、聖ドメニコ僧に対して人差し指が向けられたのだ。【連続二段階動作だ。】

聖母マリアの支持を受け入れる、【受容】という意味で、聖ドメニコ僧の両手は広げられている。(ブルーの楕円)

右側のもう一人の、同一人物である聖ドメニコ僧にも注目しよう。

このドメニコ僧は、考え方によっては、左側の聖母に教示されたドメニコ僧と同一人物のその後の姿だ。時間の経過で髪の毛が薄くなっているとも考えられる。(＊ヴェネチア派画家カルパッチョや画家ジョルジョーネの使った【異時期同一人物同時表現】の応用表現)

このドメニコ僧の右手は、《聖マタイの召命》の髭男の左手の使い方に似ている。(黄緑の円)

親指の意味は、私(ドメニコ僧自身)を示し、折り曲げた人差し指は、天上の人・つまりイエスを示している。

解析されるその意味は、【私(ドメニコ僧)が、ロザリオの聖母が伝えているイエスの教えを、皆(教徒の皆さん)に伝えよう】だ。二段階の連続動作である。

つまり、【カラヴァッジョの描く親指には、二段階の連続動作の初期動作を表すという、重要な意味が含まれているのだ。】

## 2 カラヴァッジョ作品以外ではどうか

では、この記憶がある間に、次の絵画に移ろう。



《聖マタイの召喚》テル・ブルッヘン \*右手に注目

\*親指は、自分自身に向けた人差し指に添えられた程度の意味だ。力は込められていない。角度はつかない。親指には特に意味がない。

では、もっと見てみよう。

もう一枚のカラヴァッジェスキである、同じくテル・ブルッヘンが描いた《聖マタイの召命》でも、髭男の手を見ると、人差し指と親指は自分を指し示す動作として扱われている。ここでも親指は人差し指に沿うように付け加えた動作であり、自身を指差す動作との、意味上の相違はない。



### 3 結論

このように、テル・ブルッヘンの表現に於ける親指の身体動作には、特別な意味はない。

しかし、【カラヴァッジョの描く親指】は、《ロザリオの聖母》における、右側のドメニコ僧の右手の動作の意味と同様、【私自身を示す身体動作】であり、二段階の連続動作の初期動作であるという、重要な意味を持つ。